

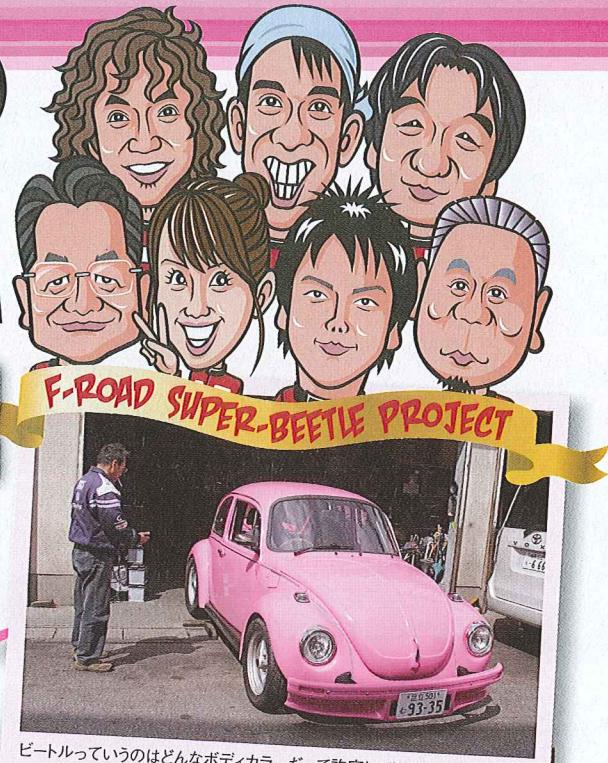
F-ROAD ピンビープロジェクト・ セカンドシーズン! SUPER-BEETLE PROJECT 2nd SEASON

ラッピングに挑戦!

インパネ移植作業がひと段落(?)したところで、街乗り仕様のために目立つすぎるピンクのボディをドーにかしたい、という願望が。そこで思い付いたのがラッピング。手始めにボンネットとエンジンフードをカーボン調にしてみよう。これで少しは落ち着いたボディになるんじゃないかな? ところが…!

文●半谷範一 撮影●森口信之

取材協力●ベストインポートサービス TEL:048-282-6119 <http://www.vw-bis.co.jp>
スピードジャパン TEL:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp/>
日栄自動車商会 TEL:024-534-9680 <http://auto.jocar.jp/nichiei/>



ビートルっていうのはどんなボディカラーダって許容してしまうような懐の深いクルマなので、別にピンビーだって全然変じやありません。でも確かこいつにむさいオヤジが乗ってたらかなり変な感じに見えちゃうなあ。



古Q編集長、「実はこれは最初から狙つてたこと。原稿にはくれぐれも『失敗』とか誤解されるような内容は書かないように!」とのこと。
小澤社長まで、「いくら素人でも、まさかここまで酷い失敗をするとは誰も思わないでしょ。きっとみんな『わざと』だと思ってくれるはずですよ」とか言つているし…。
でも不思議なもので、出来上がつたクルマは確かにちょっと他では真似できない(真似したくない)…ようなホラーで怪しい雰囲気に仕上がりました。別に負け惜しみじやなくて、これ中々良いかも知れないなあ。

吉Q編集長、自分でド派手なピンク色を選んでおきながら、なんとピンクを街乗りに使うのは恥ずかしいとかナンとか言い出しました。
でも残念ながら塗り替えるにはお金も時間もかかるし、現実的にはもう無理。そこで考え付いたのがラッピングで色を変える作戦でした。そりやもちろんラッピングだつてプロにお願いすれば費用はかかりますけど、自分達でやれば材料代だけでOKだし、この企画の趣旨にも合つてますからね。
以前、スピードジャパンの小澤社長がスタッフと一緒に社用車のボンネットで試したときには上手くできたとのことで、頑張れば我々でもできるはず(根拠なし)。ランニングボード(サイドステップ)で試したときには意外に上手にできました…。
というわけで、いくつかの候補の中から吉Q編集長が選んだのはカーボン調のシートでした。まあレーシーな雰囲気を出すならカーボンでしょうね。そしてその結果が、この上の写真だよ。皆さん絶句…かな?

吉Q編集長曰く、「実はこれは最初から狙つてたこと。原稿にはくれぐれも『失敗』とか誤解されるような内容は書かないように!」とのこと。
小澤社長まで、「いくら素人でも、まさかここまで酷い失敗をするとは誰も思わないでしょ。きっとみんな『わざと』だと思ってくれるはずですよ」とか言つているし…。

すべては計算通り!? のラッピング作業



今回は久々に森口カメラマンの息子さん、TOKIO君(左)がヘルプに駆け付けてくれました。生まれる前から英才教育されているので、クルマはビートルにすること決めているそうです。この春から高校生です。



唯一の経験者である小澤さんの指示にしたがって、いざ作業開始! 最初は中央部分だけ貼り付けて位置決めして、その後で上から少しづつ貼るというまっとうな作戦で行くことにしました。糊は結構強力な印象。



皆で周りを引っ張りながら、小澤さんが少しづつ貼り付けて行きます。小さな気泡は後から針で抜くことができるので、あまり心配ないとのこと。大きな気泡ができるときは、その部分を一度剥がして貼り直し。



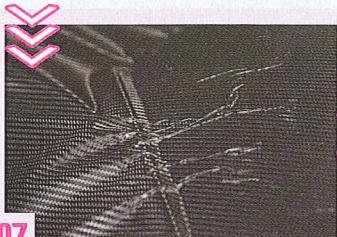
しかしその時すでに、悪魔は我々のすぐ背後まで迫ってきていたのです。作業が先端に近づくにつれて、このように縦に入る深いシワの数が増え、徐々に取り除くのに何度もやり直しが必要になってきました。



こういった凹部もアイロンで温めながらヘラで押しつければ、きれいに貼ることができます。ウンウン、これは初めとしては上出来なんじゃないかな? オレ達だってやればちゃんとできるんだぞ!



ここでBISの山崎社長も登場。少しずつ、丁寧に丁寧に作業を続けます。この辺りまでは凄く上手にできていたので、このまますんなりと上手くできるかもしれないという淡い期待が胸をよぎります。



その後、シワがどうしても取り除けない状況に陥るまでそう長い時間は必要ありませんでした。もうこうなってしまうと貼り直しても無理。貼るときに引っ張り過ぎるとかえって縦じわが出ることが分かりました。



はい、完成……なのかな? 上の方は悪くないけど下の方は酷くシワシワになってしまいました。こうやってみると、何だかまるで血管のように見えます。しかし、その言葉で編集長の頭に何か閃いたようです。



どうするのかと思ったら、赤いタッチアップ様のペイントでシワを塗り始めました。古Q編集長曰く、「これは実は最初から血管にしようと狙っていました。だからもっとちゃんと目立つように赤く塗るんです」

ついでにこんな所もカーボン調に



カーボンのラッピング用シートが少し余ったので、ちょっと遊んでみることにしました。燃料給油口のリッドは平面なんで、こんな風に簡単にきれいに貼れました。ポンネットももっとRが少ない形状だったら、恐らく普通にきれいに貼れたでしょう。



これが塗り上がったフロントフード。ホラーというか、アートというか、今まで見たことが無い不思議なイメージに見えます。まあ小澤さんの言う通り、ここまでやってしまえば、さすがにわざとしか見えません。

完成!

はい、これで完成。何だか凄い形相クルマになってしまいましたね。でもこれ一台だけだと完全に失敗したと思われちゃうから、なんとかしてこの血管塗装を流行らせたいです。できれば格好良いスーパーカーの間で流行って欲しい。古Q編集長はさらにフード上に恐いステッカーを貼るそうです。

オレ、高校1年の森口カメ2世精神年齢は一番上打ち上げは成功です! すべては計画通り血走りピンキー完成!

卒業式に休んだ森口カメです
僕のこと忘れないで



血走ったピンキー。夜走っていて後ろからこんなのが来たらやっぱり恐いです。でもこういう仕上げは今まで見たことないから面白いですね。有名人が格好良く宣伝してくれたら、人気が出るかもしれないなあ。



側面はこんな感じ。見事に血管、浮き上がりちゃってますねえ。左右のバランスを考えながら血管が足りない部分に関しては平面部分にも書き足してあります。こういう作業はやり過ぎないように注意しないとね。

エンジンフードも同じようにラッピング



リアードに関しては、森口カメラマンから提供していただいたFRP製フードを使用することにしました。軽量であることはもちろんですが、このフードにはルーバーがないので、純正のフードよりも作業がしやすいだろうという配慮です。フロント側と同じような手順で作業を進めいたらやはり下の方に血管条のシワが寄ってしまいました。というわけで、こちらの方にもフロントフードと同じ手順で血管塗装を施しておくことにしました。

